

化学殺菌剤

オーソサイド水和剤 80

有効成分：キャプタン 80.0%

作用機構分類：殺菌剤分類 M4

オーソサイド水和剤 80

登録番号：第21292号

性状：類白色水和性粉末 45μm 以下

有効年限：4年

包装：250g × 60 袋、500g × 20 袋、1kg × 10 袋、1.25kg × 12 袋

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数	
小麦	赤かび病 葉枯症 ふ枯病	600～1000 倍	60～150ℓ / 10a	収穫 14 日前まで	4 回以内		4 回以内	
	黒変病 黒点病	1000～1500 倍						
りんご	黒星病	600～1000 倍	200～700ℓ / 10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	6 回以内	
	黒点病	800～1200 倍						
	斑点落葉病 輪紋病、褐斑病 すず点病 すず斑病	600～800 倍		収穫 3 日前まで	9 回以内			
	炭疽病	800 倍		収穫 30 日前まで	3 回以内			
	赤星病、黒星病 輪紋病	600～1000 倍		収穫 14 日前まで	5 回以内			
なし	疫 病	1000 倍	100～300ℓ / 10a	収穫 21 日前まで	6 回以内		6 回以内	
	炭疽病	800 倍						
	ぶどう	晩腐病、褐斑病 灰色かび病 べと病、枝膨病 黒とう病						
おうとう	褐色せん孔病 灰星病、炭疽病	800 倍		収穫 7 日前まで	5 回以内		3 回以内	
マルメロ	黒点病	1000 倍		収穫 14 日前まで	6 回以内			
小粒核果類	黒星病	800～1000 倍		収穫 21 日前まで	3 回以内		3 回以内	
	すず斑病	800 倍						
ブルーベリー	斑点病	500～1000 倍			2 回以内		5 回以内 (生育期は 2 回以内、収穫終了後～落葉期までは 3 回以内)	
	すず点病 灰色かび病	500 倍						
はくさい	黒斑病、白斑病 苗立枯病	600～1200 倍		収穫前日まで	5 回以内		6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 5 回以内)	
	べと病、炭疽病	600 倍						
	軟腐病	800 倍						
トマト	疫 病	800～1200 倍			5 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)	
	葉かび病 灰色かび病 すすかび病	800 倍						
	炭疽病、褐斑病 つる枯病	600～800 倍						
きゅうり	灰色かび病	800 倍		収穫 14 日前まで				
	べと病	600 倍						
	べと病、つる枯病	400～800 倍						
すいか メロン	炭疽病	600 倍						
	べと病	600 倍						
しろうり かぼちゃ	炭疽病	400～800 倍						

アリスタライフサイエンス株式会社

www.arystalifescience.jp

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャップを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	灰色かび病 白色疫病 苗立枯病 軟腐病	600 倍	100~300ℓ/ 10a	収穫前日まで	5 回以内		6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
葉たまねぎ	灰色かび病 白色疫病 苗立枯病			収穫 7 日 前まで			
いちご	灰色かび病 炭疽病、芽枯病			収穫開始 14 日 前まで			5 回以内
いんげんまめ	炭疽病	600~1200 倍		収穫 30 日 前まで	2 回以内		3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
さくら	炭疽病	800 倍	200~700ℓ/ 10a	発病前 ~ 発病初期	8 回以内		8 回以内
ゆきやなぎ	苗立枯病	1000 倍					
せんりょう	炭疽病	600 倍					
芝	葉腐病 (ブランバッヂ)	300~500 倍 500~800 倍	0.5~2 ℥/m ²	発病初期	8 回以内		8 回以内
	赤焼病	300~800 倍	1~2 ℥/m ²				
西洋芝 (ベントグラス)	炭疽病	300~500 倍	0.5 ℥/m ²				
パイナップル	根腐萎凋病	500 倍	300~400ℓ/ 10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内		3 回以内
もも	縮葉病	600 倍	200~700ℓ/ 10a	発芽前	4 回以内		4 回以内
しょうが	白星病			収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	5回以内 (塊茎粉衣は 1 回以内、 灌注は 2 回以内、散布 は 2 回以内)
ごぼう	黒斑病			収穫 14 日 前まで	5 回以内		6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
パパイヤ	炭疽病、黒腐病	600 倍	200~700ℓ/ 10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内
マンゴー	炭疽病						
かき	落葉病 炭疽病 すす点病	1000 倍	100~300ℓ/ 10a	5 回以内			5 回以内
くるみ	炭疽病 褐斑病	800 倍					
花き類・観葉植物 (ばら、りんどう、 せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイ太平、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロを除く)	茎腐病 立枯病 苗立枯病	600 倍					
ばら	黒星病	800 倍	100~300ℓ/ 10a	発病前 ~ 発病初期	8 回以内		8 回以内
	茎腐病 立枯病 苗立枯病	600 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
りんどう	葉枯病、茎腐病、立枯病、苗立枯病	600 倍	100~300ℓ/ 10a	発病前 ~ 発病初期	8 回以内	散布	8 回以内
せんにちこう	斑葉病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
コスモス	そうか病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
ひまわり	べと病、黒斑病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
シネラリア	褐斑病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
スイトピー	腰折病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
みやこわすれ アンスリウム	根腐病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						
斑入り アマドコロ	斑点病、茎腐病、立枯病、苗立枯病						

土壤病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
せり科 葉菜類 (せりを除く)	苗立枯病	800 倍	2 ℓ/m ²	は種後から 2~3 葉期まで	2 回以内	灌注	3回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は2回以内)
トマト きゅうり なす メロン すいか しろとうり かぼちゃ		種子重量の 0.2~0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
ピーマン		800 倍	2 ℓ/m ²	は種後から 2~3 葉期まで	5 回以内	灌注	
とうがらし類		種子重量の 0.2~0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣	2回以内 (種子粉衣は1回以内)
オクラ		800 倍	2 ℓ/m ²	は種後から 2~3 葉期まで	2 回以内	灌注	3回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は2回以内)
しょうが	根茎腐敗病	400 倍	3 ℓ/m ²	収穫 30 日 前まで	2 回以内	灌注	5回以内 (塊茎粉衣は1回以内、灌注は2回以内、散布は2回以内)
チューリップ	青かび病	塊茎重量の 2%	—	植付前	1 回	塊茎粉衣	
アイリス		800~1000 倍		球根掘取時 及び植付時	8 回以内	球根浸漬	8回以内
ゆり	腐敗病	400 倍	—	植付前 または貯蔵前	1 回	30 分間 球根浸漬	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
野菜類(いも類を除く) 飼料作物 未成熟とうもろこし	ピシウム・リゾクトニア菌による病害 (苗立枯病等)	種子重量の0.2~0.4%	—	は種前	1回	種子処理機による種子粉衣	1回
花き類・観葉植物							8回以内

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	キャプタンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
西洋芝 (ペントグラス)	藻類 コケ類	芝生育期 (雑草発生初期)	1~2g/m ²	0.5 ℥/m ²	8回以内	散布	8回以内

[特長]

- * 世界で広く長く使用されている総合殺菌剤です。
- * 日本では発売以来60年間にわたり、汎用性の高い基幹剤として使用され続けています。
- * 小麦、果樹、野菜、花き類を始めとした多くの作物の広範囲の病害に安定した予防効果を示します。
- * 生育期散布のほか、種子消毒、幼苗期の土壤灌注などにより、腐敗病や苗立枯病などの土壤病害にも優れた効果を発揮します。
- * 有効成分のキャプタンは、病原菌の多作用点を阻害するため薬剤耐性が発達するリスクが低く、耐性菌対策としても有効です。

[使用上の注意事項]

- * 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- * 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用はさけること。
- * りんごの斑点落葉病に対して、後期の多発時では効果が劣ることがあるので、初期の防除を主体とすること。黒点病、黒星病などとの同時防除に使用するのが有効である。
- * パイナップルの根腐萎凋病防除に使用する場合は、植付後1ヶ月以内及びその後発生をみたら直ちに、散布液が株元の土壤にも浸透するように散布すること。
- * おうとうに使用する場合、5月下旬以降の散布には、固着性の強い展着剤を加用しないこと。
- * ももの縮葉病防除に使用する場合は、発芽後の若葉には薬害のおそれがあるので、必ず発芽前に散布すること。
- * うめに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、5月下旬以降の防除は高温時をさけて散布すること。
- * チューリップに使用する場合は、球根の土をよく落とし、15分間位浸漬すること。
- * いちごに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、夏期の防除は高温時をさけて、朝夕などの涼しい時に散布すること。
- * ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので十分注意すること。

- * マンゴーに使用する場合、着色期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意すること。
 - * ブルーベリーに使用する場合、果実肥大期以降の散布では果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意すること。
 - * コケ類に対して使用する場合は、散布時期を逸しないよう発生初期に本剤を散布し、十分な効果が得られない場合には、14日前後の間隔で反復処理を行うこと。
 - * カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また、使用後14日間は入水しないこと。
 - * 本剤を使用したつまみ菜、間引き菜等の幼植物は食用に供さないこと。
 - * 本剤で塊茎粉衣処理した種しょうがは食料や動物飼料として用いないこと。
- また、収穫時には新しょうがと塊茎粉衣処理した種しょうがを分別し、塊茎粉衣処理した種しょうがは確実に廃棄すること。
- * 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
 - * 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること が望ましい。

[安全使用上の注意事項]

- * 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- * 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- * 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- * 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- * かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物との接触をさけること。
- * 夏期高温時の使用をさけること。
- * 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- * 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- * 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。